

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客さまだけでなく、職員も一緒に楽しめるような企画を実施しようと努力している。日々お客様と話す中での何気ない会話から気持ちをくみとり、それぞれのお客様の望んでいる事を考え、少しでも実現できるような支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、東武佐野線堀米駅東口に隣接し、周辺は住宅地や小学校・保育園・公民館・公園などの公共施設があり、利便性が良く、閑静な場所に立地している。「万葉福祉プラザ」の2階にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所がある。駅を挟んで、同一法人が運営する特別養護老人ホームがあり、大きな行事は一緒に行っている。法人の基本理念は、「私たちは、お客様の満足をすべてに優先します」「私たちは、一人ひとりの生活や思いを大切にします」「私たちは、プロとして心をこめて行動します」の三つであり、当事業所もその理念を生かしたケアの実践に努めている。地域との付き合いは、相互の行事を通して活発になってきており、交流が深まっている。また、職員は利用者ニーズとコミュニケーションを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「感動満足」を共有している。お客様だけでなく、万葉に関わるすべての人に感動満足を感じていただく事が理念の考え方である。	全職員が、法人の基本理念を記載したカードを携帯して、その共有化に努めている。また、毎月1回の職員会議で理念を確認し、利用者に「感動満足」のサービスが提供できるよう実践につなげている。	開設から4年半が過ぎたことでもあり、法人共通の理念の他に、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の検討を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は駅の改札口を出てすぐの場所にある。住宅地に隣接している。日常的に地域の中での生活となっている。施設の行事に参加したり、保育園との交流事業も行っている。	自治会に加入し、事業所の広報誌を回覧している。七夕・夏祭り・万葉フェスティバル等に、地域の老人会・女性会・子ども会・消防団などの参加がある。近くの保育園児の誕生会にも参加している。また、来年は園児を招待する予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の他事業所では実習生の受け入れを行ったりや、外部講師として招かれるといった機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。運営状況や提供したサービス等について報告し、いただいた意見をその後のサービスに生かし、さらによいものにならんと参考している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。メンバーは、利用者、家族、自治会役員、地域包括支援センター、民生委員であり、事業所の活動報告や外部調査報告をし、意見要望等はサービス向上につなげるよう努めている。今後消防団の参加も予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	10月16日に佐野市より実地指導を受け、事業所について知っていただけたと思う。今後の改善点等についても指摘を受けたので改善するとともに、協力しながらサービスの質の向上を図りたい。	運営推進会議の結果を報告する際に意見交換しているほか、わからない事があれば随時相談して意思疎通を図っており、良好な関係が保たれるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に身体拘束について学ぶ機会を持ち、直接身体への拘束だけでなく、言葉や薬に関した拘束も行わないような支援をしている。また、身体拘束を行った事による弊害についても理解をしている。	法人に「身体拘束委員会」が設置されており、当事業所からも委員が参加している。その内容は職員会議で確認し共有化を図っている。玄関は施錠していない。また、言葉による拘束もしないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は起こってしまったからではなく、引き金となる原因や背景が必ずあるものなので、起こる前に防げるような取り組みが必要になると思う。事業所内での虐待はない。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところそれらの事業については活用する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、重要事項の説明や契約内容について説明を行っている。問い合わせがあった場合はいつでも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。運営推進会議でも皆様からご意見をいただき、小さな事でも生かせるように努めている。	家族の面会時に、日常生活について報告し、意見要望を聴いている。意見箱も設置されている。出された意見要望等は、会議等で検討し運営に反映させている。	家族全員が一堂に会し、職員と意見交換する機会がないようなので、工夫を凝らして、そのような機会を設けることの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度スタッフ全員が集まり会議を開催している。そこでの意見はリーダー会議で代表者に報告するとともに、話し合いの機会を持っている。	月に1日、全職員出勤の日を設け、職員会議を開催している。意見要望は言いやすく、出されたものは、法人のリーダー会議(管理者出席)にも報告している。職員は、イベントの開催、手すりや観葉植物の設置、支援の仕方まで幅広く提案している。管理者は、職員も楽しく支援出来るように意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施しており、自己評価を行った後直属上司・施設長が評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・入社1～2年目を対象としたスキルアップ研修など社内研修を実施している。外部研修の機会も多く、それぞれの職員にあった研修に参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度から佐野市グループホーム連絡会が発足した。会合はまだ1度だけであるが、今後は互いに協力し様々な活動に発展させたい。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様、ケアマネ等から話しをうかがい、情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様、ケアマネ等から話しをうかがい、情報を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内には入居だけでなく居宅サービス等もあるので、最もよいと思われるサービスが提供できるよう担当者と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験で得た事は、皆様沢山あると思う。何気ない会話の中や行動でも教えていただく事は多い。お互いに「ありがとう」という言葉が自然と出ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には受診などできる事はご協力いただいている。面会時間や外出・外泊等も基本的に自由なので、ご家族様と過ごす時間を沢山持っていたきたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に懐かしい体験や場所を訪れる事はよいと思うが、ご家族様にとってはそうではない場合もある。	利用者本人とご家族の相互の思いがかみ合わず、実現に至らない事もあるが、友人の面会、家族との外出など、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士合う合わないといった関係性はあって当然なので、無理に一緒に過ごすような事はしない。常にお客様の様子を見ながら時には職員が間に入り、共同生活を送れるように努めている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出す等して、お付き合いが持続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が有する力を発揮して生き生きとした生活を送るにはどうしたらいいか、様々な視点からお客様を捉えるようにしている。	日頃の何気ない会話から興味のある事などを聞き、また、日々の言動から、思いや意向を把握している。把握が困難な場合は、時間をかけて表情、態度、反応などから真意を汲み取り、本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居しても以前の生活が持続できるよう、関係者から多くの情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の情報に頼らず、実際に生活をしてみての様子を観察している。できないとかがっていた行為ができていたりするのは、よくある事である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	無理をせずできる事を継続する、ご家族の要望をうかがう、職員の意見を持ち寄る。以上からご本人様によいと思われる目標を考え、介護計画を作成している。	毎月の職員会議において、利用者全員のサービス内容について、話し合いをしている。介護計画は、家族の意見要望を聴き3ヶ月ごとにサービス担当者会議で見直している。また、状況の変化に応じ、現状に即した介護計画を随時作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の行動・様子・言葉等、経過記録はできるだけ細かく記入するようにしている。日常のちょっとした変化や職員の対応を全員が把握する事でよい支援に繋げる為の参考にしたりできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護施設という枠に捉われないサービスの提供をしたいと考えている。お1人だけが望むようなサービスでも可能であれば実現できるよう努力している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を広く捉え、サービスに役立てようと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様が同行する方、往診の方など様々である。日常の様子を報告し指示をいただいたりしながら健康管理に努めている。	かかりつけ医との関係を尊重し、継続受診を支援している。家族が同行する場合近況をお知らせし、受診してもらっている。また、すぐ近くの医院で月1回の往診を受けている。利用者の中には透析者もあり職員が付き添いをして状況を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所1階の看護師と連携をとりお客様の状態を把握し、必要に応じて処置を行っていたりもする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻りに病院を訪れ、状態の把握に努めている。退院後の生活についての相談にも応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医と連携をとり、ご希望があれば看取りも行う。重度化したり医療行為の必要性が高くなった場合は、他施設を提案する事もある。	本人、家族の希望があれば、看取りも行う方針であり、これまでも往診できる医師と看護師のもと、看取りを行ったことがある。食事が摂れない等、重度化した場合は、家族・主治医とよく話し合いながら連携した対応をしている。急変時の連絡態勢は、管理者から全職員に周知されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在インシュリン注射、人工透析といった処置を行っている方もおられる。一般的な急変だけではなく、そのような疾病においても急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。運営推進会議でも災害時の状況について話し合い、地域の方に協力をお願いしている。防火設備はあるが実際の災害現場では大勢の方の協力が必要になると思うので、今後ご家族にもご協力をお願いしたい。	避難訓練は年2回実施し、避難経路の再確認をしている。職員は消火器の使い方や夜間時の避難についても把握している。地元の消防団や地域の方に協力をお願いをし、水・米・缶詰類の備蓄もある。	運営推進会議で、災害時の避難について話はされているが、夜間想定避難訓練が実施されていないため、地域の方に参加のお願いをして、実際に訓練を行う事などの検討に期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ・居室入室の際のノック・排泄支援時の配慮など、基本的な事を必ず守り対応している。	一人ひとりの人格を尊重して、声かけや一つ一つの行動にも配慮している。排泄時には、了解を得てから介助の手を差し伸べている。個人情報を含む古い書類も管理、保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～して下さい」ではなく「～していただけますか」というように、ご本人様に選択していただくような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、それぞれのお客様のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理・美容師の出張があり、要望に合わせてカット・カラー・パーマ等行っている。日常では男性の髭そりや食べこぼしによる衣類の汚れなど、個々に応じた身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理やおやつ作り等の際には、下ごしらえや盛り付けなど手伝っていただいている。昼食は毎日同じものを一緒に食べている。必要に応じて形態をかえたり、時間を要してもせかすような声かけは行わない。	献立、調理は外注にお願いしているが3ヶ月に1回、管理栄養士と献立の見直しをしている。盛り付けや片付けは、職員と利用者が一緒に行い、会話を楽しみながら食事をしている。毎週月・木曜日に季節感を取り入れ、一緒におやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は数種類用意してあり、好みのものを提供できるようになっている。ご飯・汁物はキッチンで準備し副食は外注となっているが、栄養バランスのとれた献立となっており、状況に応じて代替品も可能である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	キッチン横の洗面台で口腔ケアを実施している。歯磨きのできる方、うがいのみできる方などそれぞれであるが、できる事はご本人様の様子を見ながらやっていただくようにしている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	8名がトイレを使用している。排泄を細かい行為の積み重ねと考え、できる事はご本人様にやっていただきできない部分を支援する事で、自立した排泄行為に繋がると考えている。	排泄チェック表と利用者の行動動作を把握し、職員は何気なくトイレへの声かけを行っている。必ず便座に座る事を見守りや介助で行い、自立した排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らず、水分を多めに摂ったりオリゴ糖を甘味料として飲み物に入れたりして、自然な排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早朝や夕方から夜間以外はいつでも入浴できる。1人のスタッフが準備から入浴後の水分摂取までの支援を行っている。1対1の支援なので、ゆっくり話をしたりできる時間もある。	希望に沿って、週2~3回入浴している。職員は何気ない会話に耳を傾けながら、ゆったりとした支援をしている。季節に応じた入浴剤やゆず湯・菖蒲湯を提供している。入浴困難な方には、清拭や着替えの支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回リネン類の交換を行っている。汚染時はその都度交換し、常に清潔なものを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関する説明書はひとまとめにして保管しており、いつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔電車の運転手をしていた方がおり、毎日懐かしそうに電車を眺めておられる。電車に乗る機会がないかと考え、夏お祭りに外出する際1駅だけ乗車した。ご本人様はもちろん、職員も満足する出来事だった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必ずしもご希望に添った外出がいつでもできる訳ではないが、事前に計画をたて外出する機会を設ける事がある。ご自宅にお帰りになる場合等はご家族にご協力をお願いしている。	外食・地域のイベント・道の駅などに出かけている。希望を把握し、出来るだけ外出の機会が多くなるように努めている。「鉄道に乗りたい」との利用者の希望に応じ、職員が同行した事もある。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。外出等の際ご本人に支払いなど行っていただき、少しでもお金に触れる機会を持つようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は白・ベージュ・茶色を基調とし落ち着いた色調となっている。所々に観葉植物を置いたり季節の花を飾ったりしている。「日付がわからない」という意見があったので、大きいカレンダーを作成し掲示した。	共用の空間は不快や刺激を感じることもなく、明るく適温になっている。壁面にちぎり絵が飾られ、キッチン前には分かりやすく大きな手作りカレンダーがある。窓際のソファや互いの顔を見渡せる大きな丸テーブルなど、和やかに安心して過ごせる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る場所は特に決まっていない。その時々に応じて好きな場所で過ごしていただいている。リビングのテーブルはレイアウトの変化ができ、イベント時等は形を変えて使用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット・照明・洗面台・カーテン・エアコン・タンスが備え付けとなっている。危険を伴うような物以外は持ち込み自由となっている。ナースコールは持ち運びが可能なので、ベットの位置などは使いやすいように移動してもよい。	居室は殆んどのが備え付けであるが、毛布やタオルケット・収納ケースは自由に持ち込んでいる。また、馴染みの物や家族写真を飾り、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。衣類の交換は家族が行い、掃除は職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりの設置もある。設えも季節を感じられるようなものをレクレーションとしてお客様と作成し掲示している。		